

12月にGoogleフォームによる児童対象のアンケート、及び保護者アンケートを行いました。結果をもとに、さらに良い学校をめざし改善を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 1 児童対象のアンケート結果について

○ 12月に児童対象の「子どもの意識実態調査」を実施しました。今年度も市全体の意識実態調査が、全児童に行われるため、意識実態調査に本校独自の質問を加えて実施しました。5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったことを受けて学校生活も徐々に元の生活に戻ってきています。こうした変化は、子どもたちの学校生活はもとより家庭生活においても様々な影響が出てきたと考えられます。

① 「2.学校は楽しいですか」のA評価は55%と昨年度と比べると1%下がりました。また、肯定的評価は89%と変わっていません。各学級で日々の授業を大切に、温かい人間関係づくりを心がけてきました。制限された生活も回復してきていくことが増えてきているのですが、数値が回復しませんでした。「未来を拓く子ども」の大切な指標となる数値を来年度は高められるように、全学年に導入されているQ-U、ピアサポート活動を支援に生かしていきたいと考えています。今後も、子どもたちにとって、通いたくなる、魅力のある楽しい学校づくりに努めていきます。

② 確かな学力の育成では「3.授業はよく分かりますか」の問いに対して、昨年度に比べ、肯定的評価の割合が77%、A評価の児童の割合が36%とともに2%下がっています。ただ、A評価、肯定的評価が下がっていることに関しては継続して研修に努め、授業力の向上を図っていくことが必要だと考えます。今年度は「対話力」に力を入れて話し合う活動に積極的に取り組むとともに、教職員の力量向上をめざした研修を行ってきました。実際に、外部講師による「ファシリテーション研修」、「国語授業法」などの研修を実施しました。また、授業展開の工夫を学ぶための学年での「同単元・同時間」の研究授業の実施などを行ってきました。来年度はより一層、子どもたちの学力向上に向け、さらに「対話力」を伸ばす指導の工夫に力を入れて今後も研修していきます。

③ 豊かな心の育成では、「4.自分には良いところがありますか」の問いに対しては、A評価で1%下がりましたが肯定的評価で1%上がり、ほぼ変化がない結果となりました。今後も児童の自己肯定感を高め、ほめ言葉のシャワーといった自分の良さを認められるような活動を取り入れ、数値が上がるよう支援していきます。「8.自分の夢や目標をもっていますか」の問いに対しては、「もっている」と答えた児童の割合が3%下がっています。今年度もキャリア教育授業を7月に行い2月にも予定しています。また、12月に2、5年生には「いのちの授業」を行いました。こうした取り組みを継続していくことが必要であると感じます。「5.人に親切にしたいと思えますか」の問いに対しては、昨年度同様に高い数値を保っています。他人を認めようとする意識が定着してきたと思われます。信頼される学校づくりとして、「9.自分の学校に自慢できることがありますか」の問いに対しては、A評価で5%、肯定的評価で3%昨年度より下がっています。魅力的な学校づくりをしていくためにも来年度も引き続き努力していく課題となっています。今後、さらに児童の意識を高め、自分たちの学校に誇りをもてるように支援していきます。

④ 「14.困ったことがあるときに、だれに相談しますか」の問いに対しては、先生の割合が48%となっています。また、約9%の児童が相談しないと答えています。今年度も人間関係力の向上をめざし、ピアサポートの授業を全学年で実施し、互いに認め合う学級・仲間づくりを心がけてきました。また、「道徳授業法」の研修を行うなど道徳の授業の充実にも努めました。今後も地道に続け、子どもたちの温かい人間関係づくり、安心して相談しやすい雰囲気

気づくり努めていきます。

- ⑤ 「30.きまりを守って生活していますか」の問いに対しては、肯定的評価において高い割合を維持しています。「31.進んであいさつができていますか」の問いに対しては、少し割合が減っています。今後も、あいさつや廊下・階段の歩行など意識化させ、全職員が同一歩調で根気強く指導していきます。
- ⑥ 家庭生活については、「12.学校の授業のほかに、1日にどのくらいの時間勉強しますか」の問いに対しては、しないと答えた児童が約7%いるため、家庭学習に対する積極性を高めるための取り組みを考えていく必要があります。
- 「17.携帯電話やスマートフォン、タブレットをもっていますか」の問いに対しては9割近くの児童が家族共用を含めて持っていると答えています。「19.平日に使用している時間は、一日あたりおおよそどれくらいですか」「20.休日に使用している時間は、一日あたりおおよそどれくらいですか」の問いによると、平日には、約53%の児童が2時間以上使用し、休日には約49%の児童が3時間以上使用しています。スマートフォン、タブレットが生活の一部になっていることが分かります。また、「32.毎日、どれくらいの時間ゲームをしていますか。」の問いにおいても、約50%の児童がだいたい2時間以上ゲームをしています。そして、「33.午後9時を過ぎてもゲーム機や携帯電話をよく使いますか」の問いに対しては、思う・どちらかといえば思うの割合が50%を超えています。これらの結果は、スマートフォン・タブレット・ゲームなどの使用が日常的であり、携帯電話やゲーム機の使用が夜遅い時間になっていることを示しています。そのため、今年度は、読書週間に合わせてノーメディアデーを勧め、家庭でメディアに接しない日を作ろうという取り組みをしました。
- それに関連して「13.一日にどのくらい、すいみんをとりますか」の問いに対しては、7時間以上は約70%となっており、およそ3割の児童が十分に睡眠をとれていないと考えられます。また、「7.学校に行く日は、朝食を食べていますか」では、A評価が79%となっており約2割の児童が毎日朝食を食べることはできていない状態になっています。こういった結果を踏まえて、今後も情報モラル教育、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）についての指導にも力を入れていきます。
- ⑦ 「15.自分の住んでいる町が、好きですか」では、肯定的意見が高い割合を示しています。「34.地域や子ども会の行事に進んで参加していますか」では、A評価、肯定的評価がともに下がっていることから、今年度は行事も行われていましたが地域社会の在り方が変化していると考えられます。

## 2 保護者対象の学校診断アンケート結果について

- 12月1日～12日に保護者対象の学校診断アンケートを実施しました。今年度も13項目で実施しました。今年度もGoogleフォームによるアンケートを実施し、回答を送信していただきました。結果の概要については校区世帯に配布している学校通信「かけ橋」3月号でお知らせします。
- ① 今年度は学校行事を変更することなく行うことができました。また、家庭生活もコロナ前に戻ってきました。複数の学級閉鎖もありましたが、学校生活が少しずつ元に戻ってきています。そうした中で質問項目1～9では、A評価（A：そう思う）の割合は上がっているものが増えていますが、肯定的評価の割合が下がっている項目が多くなっています。満足度の高い保護者が増えている反面、肯定的意見が減ってきていることから、行事を含め学校生活がコロナ前に戻ってきたことへの満足感が増したけれども、さらにできることが増えていくはずだという期待が表れていると考えられます。そこで、タブレットの導入により学校でできるようになったことを継続しつつ、行事等の学校生活については学校からの便りやWebサイトで情報を発信していくことで学校生活への理解を深めていただき、全体的な満足度を高めていきたいと考えています。また、質問項目9「お父さんは楽しく元気に学校に通っていますか」ではA評価が3%上がっていることから、いろいろな制約のあった学校生活がコロナ前に戻ってきてい

ることで、子どもたちにとって学校生活が楽しくなるような取り組みができるようになってきたことが分かります。

- ② そんな中で、質問項目1～7、及び9の学校としての取組や教職員の子どもたちへの接し方などに関わる部分が、本年度も全体に、「A：そう思う」「B：だいたいそう思う」の肯定的評価が高い数値である約90%を維持することができました。昨年度と比べ割合の増加はありませんが、約90%という数字は、学校への信頼、今後の期待の証でありとてもうれしいことです。
- ③ 教師と子どもとの関係を表す質問項目5「教師は子どもの教育に熱心に取り組んでいますか」、質問項目6「教師は子どもを理解していますか」ではA評価で割合が上がっていますが、肯定的評価では割合が下がっています。質問項目7「お子さんは授業がわかりやすいと言っていますか」においては、A評価、肯定的評価ともに割合が下がっています。今年度も昨年度の反省を踏まえ、教師は、講師をよんでの研修や研究授業を行い、研鑽を積みながら、授業改善を行ってきました。保護者の方からの評価でA評価・B評価の割合が安定してさらに高い値になるよう、より一層、子どもたちの学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導の工夫を今後も研修していきます。
- ③ 質問項目8「家庭学習の習慣が身についていますか」のA評価の割合は21%と昨年度と同じであり、肯定的評価は2%上がり73%でした。しかし今年度も、高い評価とは言えない結果でした。家庭学習への積極的に取り組めるよう自主学習の勧め、やり方の説明なども行い、課題の出し方を工夫してきましたが、再度各学年の家庭学習のあり方を見直していきます。今後も、各学年より毎月発行の学年だより「学習コーナー」でのアドバイスやホームページなどを通して、家庭との連携を密にしていきます。また、ご家庭での協力をよろしくお願いいたします。
- ⑤ 質問項目10～12の結果から、携帯型ゲーム機や携帯電話を使用している児童は多いけれども、各家庭において高い割合で使い方を把握し、ルールを決めていることが分かります。学校でも情報モラル教育に積極的に取り組んでいます。これからも家庭と協力しながら子どもたちがルールを守って適切な使い方ができるように取り組んでいきます。